

住みやすく、生きいきとした地域を目指して

～ 地域のまちづくりに関する施策の提案 ～

平成 2 3 年 3 月

宇都宮市河内自治会議

も く じ

I	はじめに	1
II	提案にあたって	2
III	提 案	
1	快適で安全・安心に暮らせるまちづくり	3
	提案1 利便性の高い交通環境の整備	
	提案2 快適な道路環境の整備	
	提案3 水資源の保全	
2	多様な地域資源を活かしたまちづくり	5
	提案4 歴史的文化遺産を活かしたまちづくり	
	提案5 自然・歴史・文化を学ぶ周遊コースの整備	
3	農業の多面的機能を活かしたまちづくり	7
	提案6 環境保全型農業の普及促進	
	提案7 農産物を活かした地域の活性化	
IV	おわりに	9
V	本提案に関する審議の経緯	10
VI	河内自治会議 部会開催実績	11
VII	河内自治会議委員名簿	14

I はじめに

平成19年3月に宇都宮市は旧上河内町及び旧河内町と合併し、地域自治制度を導入しました。この制度は、宇都宮市独自の新たな制度で、身近な場所での総合的なサービスの提供を行う地域自治センターを設置するとともに、住民を代表する組織として地域自治会議が設置されるなど、魅力ある地域づくりを目指すものです。

地域自治会議は、学識経験者・関係団体の代表者・公募委員で構成され、地域のまちづくりについて、地域住民の声を集約することなどを目的としています。

また、地域自治会議には大きく2つの役割があります。その1つが、市長の諮問に応じ、合併市町村基本計画の執行状況について、意見を述べることです。

この計画は、宇都宮、上河内及び河内の3つの地域の合併後の円滑な運営を確保するとともに、均衡ある発展を図るための基本方針として策定され、河内地区の地域別計画には、12の事業が盛り込まれています。

今後とも、各事業の着実な進展に向け、事業の執行状況について、見守っていく必要があります。

また、もう1つの役割は、地域のまちづくりに関する施策について提案することです。

魅力ある地域をつくるためには、地域の現状を把握し、将来像を描き、課題を解決していくとともに、地域の特性を伸ばしていく必要があります。

そのためには、地域と行政がそれぞれの役割と責任を担い、お互いに協力しながら取り組んでいくことが重要です。

これらを踏まえ、河内自治会議では、地域の将来像を見据え、地域の課題を抽出し、検討を重ねた結果、地域の特性が活かせるよう、3つの観点から提案いたします。

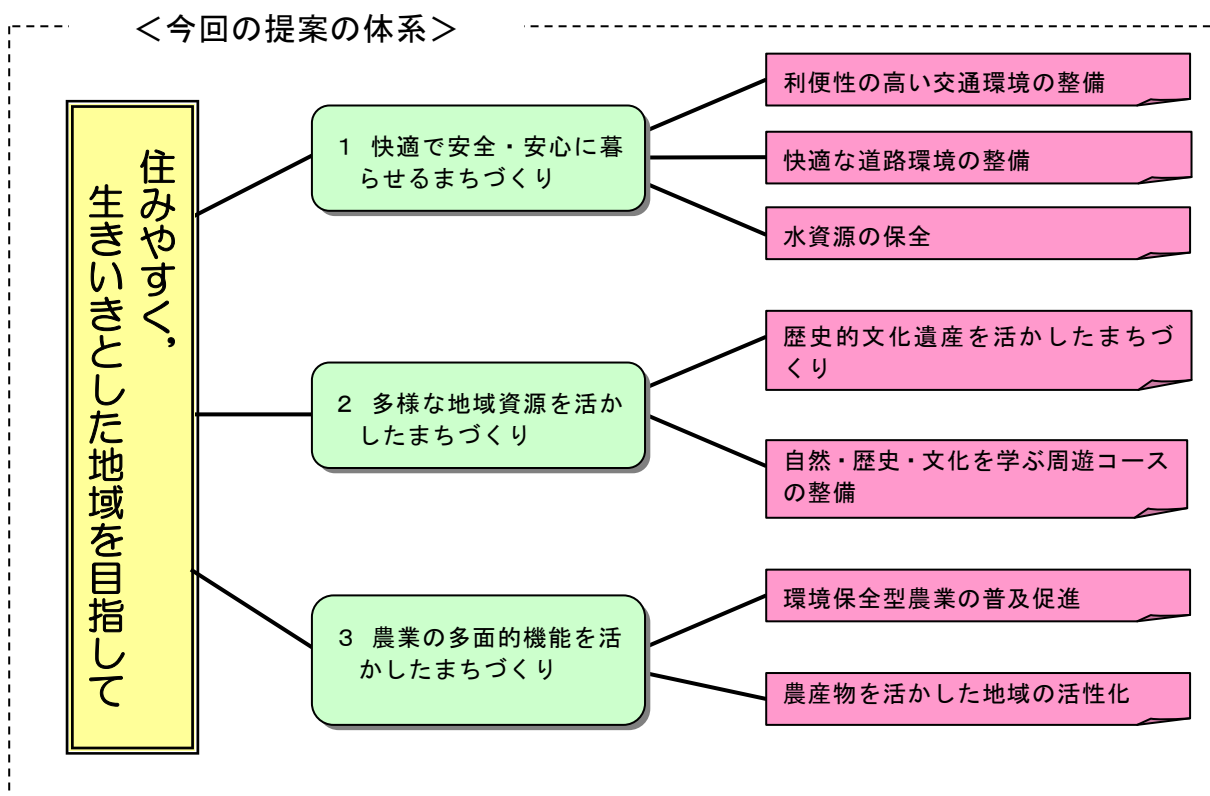
Ⅱ 提案にあたって

河内地域は、宇都宮市の中でも、歴史的遺産や自然・文化・居住環境に恵まれた魅力あふれる地域です。合併協議時に制定された合併市町村基本計画でも、河内地域の基本方針を「豊かな自然環境と質の高い居住環境が調和した、暮らしやすく、触れ合い交流に満ちた地域となるよう、都市・生活基盤が整った住宅市街地の創出を更に進めるとともに、スポーツ・レクリエーションなど高い公共機能を有する施設整備を推進する」としているように、当地域の恵まれた環境を活かしたまちづくりを進めることが求められています。

そこで本会議では、河内地域をさらに住みやすくするとともに多くの人が訪れるようにすることが、地域住民にとってもまた宇都宮市民にとっても有意義なことであると考え、次の3本の柱のもとに7つの施策を提案します。

3本の柱は、以下のとおりです。

- 1 快適で安全・安心に暮らせるまちづくり
- 2 多様な地域資源を活かしたまちづくり
- 3 農業の多面的機能を活かしたまちづくり



Ⅲ 提 案

1 快適で安全・安心に暮らせるまちづくり

地域住民がやすらぎをもって暮らせる，安全で安心な生活環境を創出するためには，すべての人にやさしい道路・交通環境の整備と，清浄で豊かな水環境の保全が必要です。

そこで，以下の３点について提案します。

提案１ 利便性の高い交通環境の整備

- ・利便性の高い交通環境の整備を図るとともに，交通弱者である高齢者の外出支援の拡充を図ること

河内地域では，鉄道，バス路線ともに南北に走っており，以前から東西を結ぶ公共交通網の弱さが指摘されてきました。

こうした不便の解消を図るため，現在，当地域では地域内交通の導入が検討されています。地域内交通を成功に導いていくためには，行政が説明会から運行開始までの各段階において人的支援を行い，運行開始後は運行経費等の金銭的支援を行う必要があります。

また，一部地域の住民は，公共交通の恩恵を受けることはできず，自動車の運転ができない高齢者等の多くはタクシーに頼らざるを得ないのが現状です。

現在，宇都宮市では，７０歳以上の高齢者にバス乗車券購入費の一部を補助しており，それは地域内交通にも適用されますが，これらの公共交通を利用できない地域も数多く存在することから，補助の適用範囲をタクシーまで広げることで，外出支援の公平性を確保する必要があります。

提案２ 快適な道路環境の整備

- ・人，自転車，自動車のいずれにもやさしい快適な道路環境の整備を図ること

合併市町村基本計画に計上されている河内地域内の市道８路線については，順調に整備が進められておりますが，この８路線以外にも，幅員が狭い路線などは，拡幅等の整備を検討する必要があります。

また，宇都宮市は「第５次宇都宮市総合計画」において，環境にやさしく健康づくりにも有効で経済性にも優れる，自転車の利活用を促進する観点から，その走行基盤である自転車道の整備を進めております。

このようなことから，特に通学路については信号機や歩道さらには，自転

車専用道の設置を促進するなど、児童生徒の安全に配慮した施設の整備が必要です。

これらの整備により、人、自転車、自動車のいずれにもやさしい快適な道路環境が実現することになります。

提案3 水資源の保全

・環境への負荷が少ない生活への取組みについて意識高揚を図ること

河内地域には、谷川などの清流があり、宇都宮市の上水道の水源ともなっていることから、清浄な水資源を保全していく必要があります。

最近では、下水道の普及により、ヤマメやスナヤツメ、ホトケドジョウなどの清らかな水を好む魚が数多く見られるようになるなど、河川の水質浄化が進んできています。地域の水資源をさらに浄化するためには、各家庭等が合成洗剤の使用を自粛していくことが必要です。

河内地域では、早くから、地域住民が廃食用油から環境にやさしいリサイクル石けんを作り、その普及に取り組むなど水資源の保全に努めてまいりましたが、こうした水資源の保全に結びつく活動を、さらに拡大させる必要があります。

このような中、市は、水資源の保全のため石けんの使用など環境への負荷が少ない生活への取組みについて意識高揚を図る必要があります。

2 多様な地域資源を活かしたまちづくり

河内地域には、先人が残してくれた多くの遺産が存在しています。これらの地域資源を活用することにより、河内独自のまちづくりを進めていくことが必要です。

そこで、以下の2点について提案します。

提案4 歴史的文化遺産を活かしたまちづくり

- ・地域内に存在する多くの歴史的文化遺産を活用したまちづくりを推進すること

白沢宿は、かつて奥州道中（街道）第1の宿として栄え、今もその名残を留めるまちなみが残されています。こうした歴史的な景観を後世に残そうと、奥州街道白澤宿の会が、屋号の表示や水車の設置など様々な活動を行っています。

白沢宿は、河内地域を代表する歴史的文化遺産です。その保全はもちろん、宿周辺の自然景観も含めたまちづくりを進めるため、地域みずからが連携・協力してさまざまな保全活動・景観形成活動を行っています。

宇都宮市としても、景観形成に関する地元説明会の開催や景観づくり推進協議会の設立支援など、様々な形で支援を実施しておりますが、歴史的景観を活かしたまちづくりを推進するため、引き続き支援する必要があります。

また、河内地域には、彫刻屋台や天棚など多くの歴史的文化遺産が数多く存在します。しかし、それらは、普段は倉庫に保管されているだけで、地域住民の目に触れる機会が少ないのが現状です。郷土の先人の偉大な遺産を身近に感じ、郷土への誇りを高めるためにも、地域内に文化財の展示場所を整備することが必要です。

提案5 自然・歴史・文化を学ぶ周遊コースの整備

- ・白沢宿を起点とする自然・歴史・文化を学ぶ周遊コースの整備を図ること

白沢宿及びその周辺地域の豊かな歴史的景観や自然景観は、宇都宮市民にもあまり知られていませんが、歩きながらじっくりと味わうことによって、そのすばらしさを実感できます。

そのためには、この地域の自然・歴史・文化を、見て、歩いて、触れるための周遊コースの整備が必要です。周遊コースは、美しい里山の自然景観が自慢の下ヶ橋地区や桜つつみ、鬼怒グリーンパーク白沢、白沢公園、やげん坂周辺を含むものとし、さらには、河内総合運動公園まで伸ばすなど、住民と来訪者が自然・歴史・文化を満喫することができるようウォーキング・ジ

ヨギング・サイクリングコースの整備をすることが必要です。

整備にあたっては、地域がコースの設定や案内看板の設置，ルートマップの作成を担当し，行政が一部道路の拡幅や歩道の整備を行うとともに，駐車場を確保するなど，地域と行政がそれぞれの役割分担のもと協力することが必要です。

3 農業の多面的機能を活かしたまちづくり

河内地域は、鬼怒川水系の豊かな水の恵みを受け、稲作を中心とした農業が盛んに行われている地域であり、農業の多面的機能を活かしたまちづくりを進めていく必要があります。

そこで、以下の2点について提案します。

提案6 環境保全型農業の普及促進

- ・豊かな自然環境を守るため、環境保全型農業の普及促進を図ること

農村は、農産物の生産地であるだけでなく、田園風景とそこに生息する多様な生き物など、そこに住む人々や、さらには都市部の人たちにも「憩いの場・癒しの場」を提供してくれます。

化学農薬や化学合成肥料の使用を通常の下分に抑えた特別栽培などの環境保全型農業は、安全・安心な農産物の生産手法として評価されており、また自然環境の側面から見ても、土壌や水質の汚染低減にもつながり、ひいては多様な生態系の維持・保全に関しても有効であると考えます。

自然環境を守り、人を守るためには特別栽培を普及させる必要があります。そのためには、農業従事者自身の努力はもちろんですが、行政として積極的に奨励するほか、技術的な指導などさまざまな面での支援が必要です。

提案7 農産物を活かした地域の活性化

- ・地域内の農産物を活かして地域の活性化を図るため、農産物直売所や農産物加工所の設置と運営を支援すること

河内地域は、豊かな水と肥沃な大地に恵まれた農業に適した地域であり、これまで、米作を中心とした農業により発展してきました。

農業経営の安定化と地域の活性化を図るためには、農産物を生産するだけでなく、加工して付加価値を付け、さらにはそれを販売する「農業の第6次産業」化を進める必要があります。

農産物直売所では、対面して販売することにより消費者のニーズをいち早く把握できるとともに、作る側の思いを消費者に伝えることもできます。また、消費者にとっては、生産者の顔が実際に見えるため安心して買うことができます。一方、農産物加工所は、農村に農業とは別の働きを提供することができます。

こうして、地産地消が促進され、収益や雇用が確保され、地域間交流も生まれて、地域の活性化が進展することになります。

このようなことから，農産物直売所や農産物加工所の設置や運営に対して支援するなどの方策を講じる必要があります。

IV おわりに

まもなく合併から4年が経過しようとしている現在、地域の状況は大きく変わろうとしています。合併市町村基本計画において、例えば、総合運動公園整備事業は、当初の計画よりも早期に完成し、平成22年10月から供用を開始しました。

地域内の小中学校の校舎及び体育館の耐震化も順調に進み、また、岡本駅西土地区画整理事業についても、積極的な整備が進められています。

今後、宇都宮市がさらなる発展を遂げていくためには、各地域がそれぞれの特色を生かした魅力的なまちづくりを進めることが必要です。そのためには、一人ひとりがまちづくりの主体は自分たちだという自覚を持ち、まちづくりに積極的に参加する必要があります。

当自治会議としても、より多くの住民の意見を取り入れ、住民が何を望んでいるのかを的確に把握し、地域の特色を生かしながら、住みよい地域にしていくために、今後とも効果的な提案を行っていきたいと思います。

今回の提案にあたっては、4つの部会（生活環境検討部会、スポーツ・教育・文化検討部会、自然・農業検討部会、まちづくり検討部会）を組織し、1年半にわたり議論を重ね、様々な検討を行って参りました。この提案は、地域の特色あるまちづくりを進めていくために必要なものと考えます。宇都宮市においては提案の趣旨を尊重し、地域の発展、さらには市全体への発展につなげていただけるよう切に期待するものです。

V 本提案に関する審議の経緯

平成21年 9月25日	平成21年度 第5回宇都宮市河内自治会議 ・先進地視察（福島県福島市・松川・町づくり委員会21）
平成21年11月19日	平成21年度 第6回宇都宮市河内自治会議 ・地域のまちづくりに関する施策の提案について調査審議
平成22年 2月 4日	平成21年度 第7回宇都宮市河内自治会議 ・地域のまちづくりに関する施策の提案について調査審議
平成22年 3月18日	平成21年度 第8回宇都宮市河内自治会議 ・地域のまちづくりに関する施策の提案について調査審議
平成22年 4月20日	平成22年度 第1回宇都宮市河内自治会議 ・地域のまちづくりに関する施策の提案について調査審議
平成22年 5月25日	平成22年度 第2回宇都宮市河内自治会議 ・地域のまちづくりに関する施策の提案について調査審議
平成22年 6月22日	平成22年度 第3回宇都宮市河内自治会議 ・先進地視察（埼玉県幸手市・旧日光街道幸手を感じる会）
平成22年 7月23日	平成22年度 第4回宇都宮市河内自治会議 ・地域のまちづくりに関する施策の提案について調査審議
平成22年10月26日	平成22年度 第5回宇都宮市河内自治会議 ・地域のまちづくりに関する施策の提案について調査審議
平成22年12月10日	平成22年度 第6回宇都宮市河内自治会議 ・地域のまちづくりに関する施策の提案（素案）の審議
平成23年 2月17日	平成22年度 第7回宇都宮市河内自治会議 ・地域のまちづくりに関する施策の提案（案）の審議

VI 河内自治会議 部会開催実績

(平成 21 年度～22 年度)

1. 生活環境検討部会（部会員 7 名）

○前野部会長，永見副部会長，小嶋委員，手塚委員，福田委員，森本委員，山根委員

回数	開催日	参加者数	開催内容等
1	平成 21 年 5 月 19 日	6 名	部会長等の選出，今後の進め方について
2	平成 21 年 6 月 19 日	6 名	今後の進め方について
3	平成 21 年 7 月 15 日	6 名	高齢者外出支援事業について
4	平成 21 年 9 月 2 日	6 名	福祉タクシーについて
5	平成 21 年 10 月 7 日	7 名	交通機関の見直しについて
6	平成 21 年 11 月 11 日	5 名	交通機関について
7	平成 22 年 2 月 17 日	4 名	高齢者外出支援事業について，公共交通機関の利活用について
8	平成 22 年 3 月 10 日	7 名	高齢者への支援マップづくり，エコについて，子育て支援について
9	平成 22 年 6 月 9 日	7 名	下水道について，交通安全について，高齢者支援について
10	平成 22 年 7 月 14 日	5 名	道路整備について
11	平成 22 年 8 月 25 日	7 名	高齢者外出支援事業の交通機関の適用拡大について，公共交通機関の利，活用するために，安全で円滑な交通を図るため，主要な道路の整備推進について
12	平成 22 年 9 月 22 日	6 名	高齢者外出支援事業の交通機関の適用拡大について，公共交通機関の利，活用するために，安全で円滑な交通を図るため，主要な道路の整備推進について
13	平成 22 年 10 月 13 日	7 名	地域のまちづくりに関する施策の提案についての素案の検討

2. スポーツ・教育・文化検討部会（部会員 6 名）

○伊藤部会長，中西副部会長，渋井委員，五月女(純)委員，松谷委員，五月女(勝)委員

回数	開催日	参加者数	開催内容等
1	平成 21 年 5 月 19 日	6 名	部会長等の選出
2	平成 21 年 6 月 19 日	5 名	それぞれの分野の問題点の洗い出し，今後の進め方について
3	平成 21 年 8 月 26 日	5 名	スポーツ・教育・文化についての自由討議
4	平成 21 年 11 月 6 日	5 名	スポーツ・教育・文化についての自由討議
5	平成 22 年 2 月 26 日	5 名	河内地区の現状把握，教育・文化に関する意見交換
6	平成 22 年 5 月 19 日	6 名	スポーツ・教育・文化についての河内地区の現状把握
一	平成 22 年 7 月 23 日	6 名	今後の部会開催日程について（※第 4 回自治会議開催前に打合せ）
7	平成 22 年 9 月 8 日	3 名	提言書の概要，今後の取組について
8	平成 22 年 9 月 28 日	6 名	提言内容の絞込み，今後の取組について
9	平成 22 年 10 月 15 日	6 名	部会としての提案についての検討

3. 自然・農業検討部会（部会員 5 名）

○西岡部会長，櫻井副部会長，駒田委員（書記），大田原委員，菊地委員，

回数	開催日	参加者数	開催内容等
1	平成 21 年 5 月 19 日	5 名	部会長等の選出，取り組み事項について
2	平成 21 年 6 月 4 日	5 名	当専門部会の進め方，自然・環境について，直売所・加工所の開発について，農業の振興について，食育について
3	平成 21 年 9 月 8 日	3 名	「この地区の自然をどう活かすか」について
4	平成 21 年 11 月 6 日	4 名	自然環境の保全と活用について
5	平成 22 年 2 月 5 日	4 名	当地区の農業の現状と課題について，当地区の農業振興策について
6	平成 22 年 6 月 4 日	5 名	この地域の自然と農業をまちづくりにどういかしていくか
7	平成 22 年 9 月 9 日	3 名	まちづくりに関する施策の提案文書（案）についての検討

4. まちづくり検討部会（部会員 19 名）

○五月女(勝)部会長，永見副部会長ほか，中村会長を除く委員全員

回数	開催日	参加者数	開催内容
1	平成 21 年 5 月 19 日	17 名	部会長等の選出
—	平成 22 年 3 月 18 日	—	まちづくり検討部会で行って欲しい研修会や勉強会のテーマ等について，部会員へのアンケートの実施
2	平成 22 年 4 月 20 日	11 名	部会で検討する項目についての協議
3	平成 22 年 5 月 25 日	16 名	ネットワーク型コンパクトシティについての勉強会
4	平成 22 年 10 月 26 日	14 名	河内地区まちづくり協議会についての勉強会

Ⅶ 河内自治会議委員名簿

(任期：平成２１年４月１日から平成２３年３月３１日まで)

会 長	中 村	祐 司
副会 長	山 根	登 博
委 員	伊 藤	昭 博
委 員	大田原	加久司
委 員	菊 地	久美子
委 員	小 嶋	由美子
委 員	駒 田	静 雄
委 員	櫻 井	清 一
委 員	渋 井	トミ子
委 員	清 水	康 弘
委 員	五月女	勝 正
委 員	五月女	純 子
委 員	手 塚	米 子
委 員	中 西	幸 子
委 員	永 見	幹 夫
委 員	西 岡	隆 義
委 員	福 田	義 雄
委 員	前 野	巖 広
委 員	松 谷	悦 美
委 員	森 本	喜 子